研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 2 年 6 月 1 2 日現在

機関番号: 34525

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2016~2019

課題番号: 16K04472

研究課題名(和文)シュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統とバウハウスにおける発想法教育学の成立

研究課題名(英文)Reformative Stream of Adolf Hoelzel in Stuttgart and the idea of Johannes Itten for the art-school reformation

研究代表者

鈴木 幹雄 (Suzuki, Mikio)

関西福祉大学・教育学部・教授

研究者番号:70163003

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2.600,000円

研究成果の概要(和文): バウハウスの導入教育ルーツは、J・イッテンが学んだシュトゥットガルト・ヘルツェル学派の改革的精神にあった。そこで同経緯と基本的骨格について研究された。他方、繊維工芸中等学校改革実践の研究を通して、もう一つのルーツが発見された。イッテンが繊維工芸教育に取り入れた導入教育(学)は、1920-30年代の実験学校の探求教授学を巧みに活用したものであった。

約一世紀生命を持ち続けたバウハウス教育学の基本骨格は、 ヘルツェル学派の洗礼を受けたJ・イッテンの 芸術学校改革実践として、 ベルン師範学校出身教授イッテンの1930年代の繊維工芸教育改革実践の一環として 実現されたものであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義 改革芸術学校バウハウスの教育は、デザイン教育、工芸・建築分野の導入教育として、米国、ヨーロッパ諸 国、日本、北欧諸国等における芸術大学改革に先駆的な役割を果たした。しかしわが国のバウハウス研究は、バウハウスの導入教育(学)の形成経緯、並びに同教育の自己探求的基礎付けという、同校教育の根幹解明の課題を

研究成果の概要(英文): In 2014, with the help of my friend specialists in Japan, we could publish our book titled " Reformation of Art Academy in the USA and Germany after or during World War II.". It brought us our deep understandings about how various art professors had contributed to the realization of reformative art schools in Germany and the USA during and after the Second World

This time, with the help of my research members this time, it became possible for us to realize our research about the underground academic streams which flew from the Academy of Stuttgart to reformative art schools in Germany during and after World War II. For about 8(4+4) years, I have engaged in our new research, "Reformative Streams in the Academy of Stuttgart in the 20th. Century and Impacts of the pedagogical Ideas upon the German Art Schools--Hoelzel School in Stuttgart, Bauhaus and Johannes Itten--".

研究分野: 社会科学(教育学)

キーワード: J・イッテン 1920-30年代の実験学校教育学 芸術アカデミー改革 シュトゥットガルト芸術アカデミー ヘルツェル学派 発想法教育学の成立

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1.研究開始当初の背景

わが国のバウハウス研究は既に90年の歴史を有し、研究上の厚みを獲得してきたが、同時に改革芸術学校バウハウスの導入教育(学)の形成経緯の解明という、同校根幹に関わる研究課題を積み残してきた。導入教育(学)は、同校の教育上の一領域ではあるが、同校が改革学校として成功を収めることになる重要な要石であり、それは外部の世界から供給された。これ迄、J・イッテンの貢献や、シュトゥットガルト芸術アカデミー教授、アドルフ・ヘルツェルの貢献等が断片的情報としては知られてきた。しかし、イッテンが育てられた同アカデミー、ヘルツェル学派の伝統にわが国の研究が入りこめなかったこともあり、バウハウス教育学、とりわけその導入教育(学)と発想法教育学の形成経緯は、今日に至るまで未解明であった。

2.研究の目的

(1)他方ドイツ語圏では、改革芸術学校バウハウスと諸外国におけるバウハウス後継学校についての研究や、戦後ドイツ語圏芸術大学改革の研究に加え、2000年代以降ヘルツェル学派の研究が進展した結果、バウハウス教育学のルーツが明らかとなってきた。

バウハウスが取り入れた導入教育(学)は、基本的に、体験的教育学を基底とした探求教育学であり、更には発想法教育学であり、重層的に構成されたこの現代教育学的輪郭こそ「 バウハウス教育学」であった。同輪郭の根幹こそ、ヘルツェル学派の弟子ヨハネス・イッテンを介して西南ドイツ、シュトゥットガルトからバウハウスにもたらされたものであり、今日に至るまでみずみずしい生命を持ち続けてきたバウハウス教育学の基本骨格であった。そこに同教育学が有していたエネルギーと、現代的ポテンシャリティーを見ることができる。

(2)そこで本研究では、わが国研究者が入りこめなかったシュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統との接点で、バウハウス教育学とバウハウスにおける導入教育学・発想法教育学がいかに成立したか、解明された。

3.研究の方法

(1)本研究の計画・方法は海外・国内調査・研究と文献に基づいた分析・研究の二点で構成される。

本研究では研究目的を達成する為に次のモティーフを取り上げる。 ヘルツェル学派における改革的伝統とイッテンによるバウハウス教育学の形成・展開過程(担当:鈴木幹雄(文献研究)、阿部守(構成教育領域における実践的分析・考証))、 バウハウス、クレーフェルト工芸学校におけるイッテンの教育実践と導入教育(学)からバウハウス教育学への展開(同上:鈴木)、 戦後改革的芸術大学にみる導入教育(学)受容と発想法教育学の波及効果(ニュー・バウハウス、シュトゥットガルト芸術大学)(同上:鈴木)、 戦後改革的芸術大学にみる導入教育(学)受容と発想法教育学の波及効果、東京教育大学構成教育教室)(同上:阿部守)。

(2)研究アプローチ: 本共同研究の当該モティーフの研究には、文献研究・芸術教育学の 立場から鈴木幹雄が、バウハウスの導入教育学と発想法教育学についての現代的・実践論 的芸術教育学の立場からは阿部 守があたることとした。 、 担当: 鈴木(研究歴: 戦後改革芸術学校におけるバウハウスの波及効果(事例:バウハウス第一世代、同第二世代) / 戦後ドイツ、並びに戦中・戦後米国における芸術アカデミー改革とバウハウス教育学の 影響についての研究 / ヘルツェル学派のアカデミー改革コンセプト)、 : 阿部 守(研究 歴:立体造形論 / 構成教育学の研究 / バウハウス教育学と現代構成教育学への影響についての研究、並びに東京教育大学構成教育教室))。

4. 研究成果

(1)改革芸術学校バウハウスの教育は、デザイン教育、工芸・建築分野の導入教育として、米国、ヨーロッパ諸国、日本、北欧諸国等における芸術大学改革に先駆的な役割を果たした。しかしわが国のバウハウス研究は、バウハウスの導入教育(学)の形成経緯、並びに同教育の自己探求的基礎付けという、同校教育の根幹解明の課題を積み残してきた。

同校導入教育の重要ルーツは、シュトゥットガルト芸術アカデミー、ヘルツェル学派の改革的精神と伝統にあった。そこで本共同科研助成の研究では、その経緯と基本的骨格について研究がなされた。

更に、クレーフェルト繊維工芸中等学校改革実践の研究を通して、もう一つのルーツの糸口が発見された。K・テーニセンの同改革研究を主文献とした 2010 年代の我々の共同研究によれば、イッテンが繊維工芸教育に取り入れた導入教育(学)のアプローチは、現代用語を用いれば、基本的に 1920-30 年代の実験学校教授学、並びに実験学校の探求教授学を巧みに活用したものであった。重層的に構成されたこの現代探求的教授学の輪郭こそ「バウハウス教育学」を支えた「造形発想教育学」の中心骨格であった。

- (2)約 100 年間みずみずしい生命を持ち続けてきたバウハウス教育学の基本骨格と、同教育学が有していた潜在的可能性は、 ヘルツェル学派の洗礼を受けた J・イッテンの芸術学校改革実践として、 ベルン師範学校出身教授イッテンの 1930 年代の繊維工芸教育改革実践の一環として実現されたものであった。
- (3)本申請研究では、わが国の研究者が入りこめなかったシュトゥットガルト・アカデミーの 改革的伝統との接点でイッテンの造形教育実践を視野に入れ、同時にそのイッテンによって 1920-30 年代の実験学校教授学遺産が水面下でどのように発見・受容・活用されたのか、更に その遺産は戦後の自己探求的芸術教育学としていかに確立されたか、を解明しようと試みた。

5 . 主な発表論文等

「雑誌論文〕 計9件(うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件)

「推秘論又」 計2件(フラ直説引論又 0件/フラ国际共有 0件/フラグーノファグピス 2件)	
1 . 著者名 阿部 守	4 . 巻 68
2.論文標題 日本におけるバウハウス発想法教育学の成立に関する考察 感性を研ぎ澄ます教育と福岡における柏崎栄助	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 福岡教育大学紀要.第5分冊,芸術・保健体育・家政科編	6.最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 鈴木幹雄	4.巻 22
2 . 論文標題 戦後ドイツ敗戦期にみる現代教育学・教育方法学の発生動態について ゲッティンゲン大学初代教育学博士学位取得者J・ゲープハルトの基礎理論構築を手掛かりとして	5 . 発行年 2019年
3 . 雑誌名 関西福祉大学紀要 	6 . 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
4 ***	
1.著者名 鈴木幹雄	4 . 巻 4(2)
2.論文標題 J・イッテンにみる繊維工芸教育と発想法教育学の構築ークレーフェルト公立繊維工芸中等学校を事例としてー	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 教育実践方法学研究	6.最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 鈴木幹雄 	4 . 巻 4(3)
2.論文標題 教育の基礎理論を主体的に学ぶ「教育原理」を模索する	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 日本教育実践方法学会『大学における教育課程の課題と展望』	6.最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない ▽はオープンアクセスが困難	国際共著

会大統領		
2. 前文標題	1.著者名	4 . 巻
実践的教育方法令の教育学的貢献とその意味を振り返る 草創期教育方法学・芸術教育学確立期における その貢献と来質的名を専門として 6 - 最初と最後の頁 25-39	鈴木幹雄	3(1)
実践的教育方法令の教育学的貢献とその意味を振り返る 草創期教育方法学・芸術教育学確立期における その貢献と来質的名を専門として 6 - 最初と最後の頁 25-39	AA	
その商献と来替給を事例として 3 秋前実践方法学研究	2.論文標題	
3 . 競技名 教育実践方法学研究 日報館なの5001(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著名名 教大格達 2 . 論文構題 ヘルシェル学派における発想法教育学派緒の選生とシュトットガルト・アカデミーの改革的伝統 2000 「デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著名名 関都論文の501(デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著名名 阿都 守 1 . 著名名 「阿都 守 1 . 新文件題		2017年
教育実践方法学研究 25-39 掲載論文の001(デジタルオブジェクト機別子)	その貢献と栄養供給を事例として	
指載論文の201 (デジタルオブジェクト議別子) なし	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
指載論文の201 (デジタルオブジェクト議別子) なし	教育実践方法学研究	25-39
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	担要やさのアクレイデンジャルナインジーカー・地口フン	本誌の左伽
1 著名名		
1 著名名 資本幹課	なし	1
1 . 著名名	オープンアクセス	国際共著
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	1 . 著者名	4 . 巻
2 . 論文標題 ヘルツェル学派における発想法教育学端緒の誕生とシュトットガルト・アカデミーの改革的伝統 2000 年代ドイツ学説史研究におらヘルツェル研究の成果を手掛かりとして 3 . 種誌名		21
ペルツェル学派における発想法教育学端緒の誕生とシュトットガルト・アカデミーの改革的伝統 2000 2018年 年代ドイツ学塾史研究にみるヘルツェル研究の成果を手掛かりとして 3. 雑誌名 (25.11.71.00	
ペルツェル学派における発想法教育学端緒の誕生とシュトットガルト・アカデミーの改革的伝統 2000 2018年 年代ドイツ学塾史研究にみるヘルツェル研究の成果を手掛かりとして 3. 雑誌名 (2.論文標題	5.発行年
年代トイツ学説史研究にみるヘルツェル研究の成果を手掛かりとして 3 、雑誌名 関西福祉大学紀要	·····	
3 . 雑誌名 関西福祉大学紀要		2010-
関西福祉大学紀要		6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1. 著者名 同部 守 2. 論文標題 日本におけるパウハウス発想法教育学の成立とその周辺 3. 雑誌名 福岡教育大学紀要 4. 巻 6. 最初と最後の頁 27-36 27-36 2018年 4. 巻 6. 最初と最後の頁 27-36 2018年 4. 巻 6. 最初と最後の頁 27-36 2018年 5. 発行年 2018年 6. 最初と最後の頁 27-36 2017年 4. 巻 10(2) 2. 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 3. 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 1掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 3. 雑誌名 4. 巻 1073-184 1掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 3. 雑誌名 4. 巻 173-184		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 著名名		20 02
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 著名名		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 阿部 守 4 . 巻 67(第5分冊) 5 . 発行年 2018年 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 27-36 6 . 最初と最後の頁 27-36		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	A #5.75 L.5	
1. 著書名		国際共者
阿部 守 67 (第5分冊) 2 . 論文標題 日本におけるパウハウス発想法教育学の成立とその周辺 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 福岡教育大学紀要 6 . 最初と最後の頁 27-36 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 10(2) 2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 6 . 最初と最後の頁 173-184 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
阿部 守 67 (第5分冊) 2 . 論文標題 日本におけるパウハウス発想法教育学の成立とその周辺 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 福岡教育大学紀要 6 . 最初と最後の頁 27-36 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 10(2) 2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 6 . 最初と最後の頁 173-184 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
2.論文標題		
日本におけるパウハウス発想法教育学の成立とその周辺2018年3 . 雑誌名 福岡教育大学紀要6 . 最初と最後の頁 27-36掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著 1 . 著者名 会計本幹離4 . 巻 10(2)2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として5 . 発行年 2017年3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要6 . 最初と最後の頁 173-184掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	阿部 守	67 (第 5 分冊)
日本におけるパウハウス発想法教育学の成立とその周辺2018年3 . 雑誌名 福岡教育大学紀要6 . 最初と最後の頁 27-36掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著 1 . 著者名 会計本幹離4 . 巻 10(2)2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として5 . 発行年 2017年3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要6 . 最初と最後の頁 173-184掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	0 *A-1/F0F	5 7%/= / -
3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 福岡教育大学紀要 27-36 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 直読の有無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 鈴木幹雄 4 . 巻 10(2) 2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 6 . 最初と最後の頁 		
福岡教育大学紀要 27-36	日本におけるバウハウス発想法教育学の成立とその周辺	2018年
福岡教育大学紀要 27-36	2 株±夕	6 早知と是後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - コ際共著 1 . 著者名 鈴木幹雄 2 . 論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 - 高読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
### おープンアクセス おープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	悃 例	21-30
### おープンアクセス おープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
1 . 著者名 鈴木幹雄 4 . 巻 10(2) 2 . 論文標題 グローパリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレ スデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 6 . 最初と最後の頁 173-184 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		国際共著
会木幹雄 10(2) 2. 論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5. 発行年 2017年 3. 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし エ読の有無 オープンアクセス 国際共著 10(2) 5. 発行年 2017年 2017年 基後の頁	オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難	-
会木幹雄 10(2) 2. 論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5. 発行年 2017年 3. 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし エ読の有無 オープンアクセス 国際共著 10(2) 5. 発行年 2017年 2017年 基後の頁		- W
2 . 論文標題 グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 5 . 発行年2017年 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 6 . 最初と最後の頁173-184 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無無 オープンアクセス 国際共著		
グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 4 載輸文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著	鈴木幹雄	10(2)
グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として 3 . 雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 4 載輸文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著	2. 本本市西西	F 琴/二年
スデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として6.最初と最後の頁 173-1843.雑誌名 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要6.最初と最後の頁 173-184掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要 173-184 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著		2017年
神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要173-184掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 無	忡广人子人间光 连哀垷子饼九科饼九紀安	173-184
なし 無		
オープンアクセス 国際共著	掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	<u></u> 査読の有無
	なし	無
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	オープンアクセス	国際共著
	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	<u>-</u>

1.著者名	4 . 巻
参 大幹雄	10(2)
2.論文標題	5 . 発行年
グローバリゼーション下2010年代ザクセン州にみる中等教育カリキュラム構成・開発の調査・研究 ドレスデン市ならびにドレスデン近郊におけるギムナジウム教科「芸術」を事例として	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
神戸大学人間発達環境学研究科研究紀要	185-195
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
A # 10 m h l m	□ 000 ±± →→
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-

1 . 発表者名

鈴木幹雄

2 . 発表標題

シュトゥットガルトにおけるアドルフ・ヘルツェルと20世紀造形的構築性コンセプトの誕生

3 . 学会等名

第55回大学美術教育学会

4 . 発表年 2016年

1.発表者名

阿部 守

2 . 発表標題

Installation - YOKOHAMA

3 . 学会等名

個展 1010美術/横浜(造形理論を基とした立体造形の発表)(招待講演)

4 . 発表年

2016年

1.発表者名 阿部 守

2 . 発表標題

展覧会「LIFESTYLES Kunst aus Fukuoka」 (ハンブルクの地でパウハウスを思索しつつ展開した制作活動)

3.学会等名

発表場所(招待講演)

4.発表年

2016年

1.発表者名 阿部 守	
ה אם בא	
2.発表標題 場に立つ	
3.学会等名 :展覧会"BAREHANDS ASIAN ARTISTS RESIDENCY PROJECT - FUKUOKA"(招待講演)	
4 . 発表年 2016年	
1.発表者名 阿部 守	
THE S	
2.発表標題 Imaginary Circle	
3.学会等名 個展(詩と音楽を基に詩人と即興音楽家とのコラボレーションを行う。実験的な展開の試み)(招待講演)
4 . 発表年 2017年	
〔図書〕 計5件	
1 . 著者名 鈴木幹雄	4 . 発行年 2020年
	- 61 0 NATE
2.出版社 風間書房	5.総ページ数 ²⁶⁸
│ │ 3.書名 │ 20世紀ドイツにおける造形表現研究と発想法教育学 シュトゥットガルト、バウハウス、イッテンの系	
譜	
1.著者名 阿部 守	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 石風社	5.総ページ数63
3 . 書名 鉄を鍛く	

1.著者名	4 . 発行年
鈴木幹雄	2017年
24 1 141 442	20 1
2.出版社	5.総ページ数
神戸大学人間発達環境学研究科鈴木幹雄研究室	27
177 ノステン(自力に定念がチャリンピーログリンピー	
3.書名	
苦難に生きた亡命ドイツ人芸術大学長達とその戦後遺産を再考する(神戸大学退官記念講演資料プロ	
シュール)	
	_
1. 著者名	4.発行年
阿部 守	2017年
2 111571	「
2. 出版社	5.総ページ数
miyataproduct	16
3 . 書名	
「LIFESTYLES展」in Hamburgを振り返って」 LIFESTYLES Kunst aus Fukuoka	
	J
4 1014 = 1 15 5	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6.研究組織

	・ドリンしが立から		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	阿部 守	福岡教育大学・教育学部・教授	
研究分担者	(ABE MAMORU)		
	(60167947)	(17101)	